

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
E132F016		経済学概論 (Introduction to Economics)														
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
必修	2	3	教育学部			氏名 宇野 真人 E-mail muno@oita-u.ac.jp 内線 7676										
授業の概要 (本授業は、経済学部において前期金曜1限に開講される「初級ミクロ経済学」と同時期・同教室で行われる) ミクロ経済学はマクロ経済学とともに理論経済学の基礎理論となるものであり、私たちの日常生活に深くかかわった経済問題を考える際の判断材料を提供してくれる。この講義では、ミクロ経済学の基本的なテーマである消費者や企業がどのように行動し、また市場でどのように価格や取引量が決定されるかについて理解することをねらいとする。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 市場という概念について具体的なイメージを形成できる。																
目標2 需要と供給の理論を理解し、価格形成について説明できる。																
目標3 市場の役割と市場の問題点を説明できる。																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 ミクロ経済学とは																
2 需要と供給1																
3 需要と供給2																
4 需要と供給3																
5 需要曲線と消費者行動1																
6 需要曲線と消費者行動2																
7 費用の構造と供給行動1																
8 費用の構造と供給行動2																
9 市場取引と資源配分1 米価問題																
10 市場取引と資源配分2 間接税の影響																
11 市場取引と資源配分3 自由貿易の利益																
12 企業の参入・退出行動1																
13 企業の参入・退出行動2																
14 無差別曲線と効用																
15 まとめ																
ラーニング	A:知識の定着・確認	授業の最後に、まとめ等を記入してもらう機会を設けるようにする。					工夫	その他の								
	B:意見の表現・交換															
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	教科書・配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する(15h)														
	事後学修	教科書・配付資料や参考文献等を用いて復習する(15h)														
教科書	『ミクロ経済学 第3版』 伊藤元重著 日本評論社															
参考書	講義中に適時紹介する。															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	定期試験	70%														
	小テスト・レポート等	30%														
注意事項	講義中の私語は禁止する。違反した場合は・・・(´・`) 詳細な注意事項は1回目の講義で説明する。															
備考																
リンク	URL															